ＪＲ九州連合情報

ＪＲ九州グループ労働組合連合会

Ｎｏ．１０

２０１９ 年 １１ 月 １８ 日

発行責任者　中原 博徳

編集責任者　住吉 一家

ＪＲ九州連合 第 29 回定期大会

ＪＲ九州グループ労働組合連合会（ＪＲ九州連合）は 11 月 16 日、「ＪＲ九州グループで働く仲間の総結集と、人材の確保・定着を通じて、安全・安心で将来に希望が持てるＪＲ九州グループを創造しよう！」とのスローガンを掲げ、福岡市内において第 29 回定期大会を開催した。

大会の前段では、ＪＲ連合が新たに策定した「中期労働政策ビジョン（2019～2023）」の学習会を開催し、ＪＲ連合の北村労働政策部長から「グループ会社に支えられているＪＲ産業は多種・多様な業態で構成される企業群であり、時間をかけて技術を高めていく特性を踏まえると、長期安定雇用は大前提であり、そのために、健全で建設的な労使関係のもと人事・賃金制度の確立や労働条件の向上を追求することが必要である。」などとした新ビジョンの説明を受けた。

＜ 学 習 会 の 様 子 ＞

役員・代議員等、約 70 名が出席した第 29 回定期大会は、大重憲一代議員（ＪＲ九州バス労組）を議長に選出した。幹事会を代表してあいさつした中原会長は、相変わらず頻発する自然災害により被災された皆さんへのお見舞いを申し述べるとともに、①安全の確立に向けた取り組み、②組織の強化・拡大に向けた取り組み、③労働条件の改善に向けた取り組みについて所信を表明した。

来賓には、ＪＲ連合から荻山会長、北村労働政策部長、交運共済九州事業本部から田頭本部長、九州労金博多支店から村永次長にお越しいただき、それぞれから連帯のあいさつをいただいた。特にＪＲ連合の荻山会長からは、そもそも労働組合は何をすべきなのか、ＪＲ連合は何をすべき団体なのかなど、ＪＲ連合の想いや課題が訴えられた。

＜第 29 回定期大会＞

議事では、住吉事務局長から「最大の課題は、全てのグループ会社における労働組合の結成であり、この間の反省を踏まえ、新組合の結成に向けて具体的な行動を積極的に展開する」などとした 2019 年度運動方針（案）等を提起し、全ての議案は満場一致で採択された。

役員の選出では、新たに平金久未子氏（ＪＲ九州住宅労組）を副会長に選出するなど、６名の新役員を含む２６名の新役員体制が確認された。